

早稲田国際ビジネスカレッジ

シラバス例

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2020年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	染色実験Ⅰ	春日 泰浩	3単位 90時間

【授業の到達目標及びテーマ】

様々な染織加工方法を実習を通して学び、特殊加工に必要な工程と必要材料を学ぶ。各加工の特徴と生じる不具合を学び、企業で働いた際に提案できる人材を育てる。

【講義概要】

- ①30種類程度の加工を施したサンプルを毎回制作、サンプル制作期間終了後ファイリングを行う。
- ②ファイリングした加工方法の中から各自目指すテキスタイルをデザイン。3m長さ程度のオリジナルテキスタイルを制作。
- ③制作した生地と使用場面・コンセプトをまとめたデータを制作。最終日プレゼンテーションを行う。

回 授業計画及び学習の内容

- 1 綿・麻の加工1顔料プリント(白生地用・色生地用)生地持込みOK
- 2 綿・麻の加工2発泡プリント パールプリント
- 3 綿・麻の加工3箔プリント・フロッキープリント
- 4 綿・麻の加工4抜染プリント(4-1)抜染生地を染める 白色抜染・着色抜染
- 5 綿・麻の加工5抜染プリント(4-2)プリント→蒸し→洗い
- 6 綿・麻の加工6防染プリント 白色防染・着色防染
- 7 綿・麻の加工7リップル加工 リップルプリント→浸染
- 8 綿・ポリエステルの加工1オパール加工 無色オパール、着色オパール
- 9 ポリエステルの加工1 熱可塑性、転写プリント
- 10 ポリエステルの加工2 プリント
- 11 シルク・ウールの加工1酸性プリント
- 12 シルクの加工2セリシン除去
- 13 シルクの加工3塩縮(浸染・捺染)
- 14 ウールの加工4(溶解)
- 15 4色分解(1)

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点、提出作品(提案)10点から成績評価を行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習を基本としてプリント生地制作に必要な実体験を学ぶ。
実用的な生地の使われ方や身の回りにある製品から学ぶ。

講師はプリント工場勤務経験があり、実務経験に基づいてテキスタイルデザイナー養成に向けた授業を展開することが出来る。

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2020年度	1年・前期 後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	友禅実習 I	安藤タツ子	6単位 180時間

【授業の到達目標及びテーマ】

友禅の基本技術を学び友禅染の工程と図案制作を学ぶ

【講義概要】

授業時に配布するテキストを元に友禅の基本技術を解説、私用する糊や色を数値だけでなく体感で確認する。

回	授業計画及び学習の内容
---	-------------

- | | |
|----|---|
| 1 | サンプル制作 学校で用意した柄を生地に写し友禅の基本工程を実践して学ぶ。 |
| ～ | この課題を通して自分の手を使って基礎工程を学ぶことで、今後作品制作をする上でのスケジュール管理と |
| 12 | 完成までの工程をイメージすることができる。 |
| 13 | 帯制作 オリジナルの図案を制作、5mの長さの友禅染め帯を作る。 |
| ～ | 図案を徹底的に考え視覚化する、課題1に比べ長い生地制作を体験することで出来る事と出来ない事を体験し |
| 25 | 今後の作品制作に反映させる。 |
| 26 | 古典模作 加賀友禅の作品の中から1点を選び模写を行う、古典の柄から技法や色の選択を学ぶ。 |
| ～ | 古典の柄から色と技法を学ぶだけでなく想像を働かせ、お手本画面にない空間の想像と当時の色を |
| 36 | 思い描きながら作品制作をする。 |

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点、提出作品(提案)10点から成績評価を行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習を基本として友禅生地制作に必要な実体験を学ぶ。
 道具や材料の使い方を実践をとおして学ぶ。講師は友禅作家として多数の受賞歴があり、
 講師経験も長いキャリアを持ち作家としての考えや作品を作る上で大切なことを教えながら授業を行うことが出来る。

シラバス例

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2020年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	織実習 I	馬場美和子	8単位 250時間

【授業の到達目標及びテーマ】

織の基本技術を学び1枚の織生地が出来上がるまでの工程を学び用途を考える。企業に就職した際、織工場へ発注依頼ができるような人材を育てる。

【講義概要】

①織物三原組織(平織、斜文織、朱子織)を学ぶ ②幾何学と具象をペーパーデザインし、その中から1点選び綴れ織りで表現する。③チェックのデザイン画を制作、デザイン画を元に糸計算、糸染、糸セットを行いマフラーを製織する。

回	授業計画及び学習の内容
1	糸について 整経 糸染め準備
2	糸染め(シリヤス染料)
3	機がけ
4	製織 平織・綾織・トルコ朱子織
5	製織 ななこ織
6	製織 ワッフル
7	製織 吉野織
8	製織 ヘリンボーン
9	製織 オーバーショット
10	整経 機がけ
11	機がけ 半そうこう
12	製織
13	製織
14	製織
15	以下、厚地織物制作とマフラー制作を行う。

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点、提出作品(提案)10点から成績評価を行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

織の基本工程や糸計算を解説。学生が各自糸セットと織り作業を行い織生地への理解を深めるようにする。道具や材料の使い方を実践をとおして学ぶ。講師は織作家として活躍しており、展示販売も頻繁に行っている。

講師経験も長いキャリアを持ち販売する際の手法や自分の作品制作を通して学生に伝えながら授業を行う

早稲田国際ビジネスカレッジ

シラバス例

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2020年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	アパレル企画 I	東 重美	3単位 90時間

【授業の到達目標及びテーマ】

企画の基本となるプランニング方法や資料請求のまとめ方を学ぶ。簡潔に事柄を伝えることを習得して、デザイナーとしてひつようなスキルを身に付ける。

【講義概要】

①企画書作成 テーマを選択して各自企画をまとめ企画書を作る。②マーケティングリサーチ リサーチした内容をまとめリサーチマップをつくる。③企画マップ作成 生地や写真を使い資料をまとめ企画マップをつくる。企画書に適した言葉使いは手法は日々変化する、雑誌やCMのキャッチコピーなどファッションだけでなくシャイの情勢などデザイナーに必要な事柄を意識しながらアンテナを広げる術を伝える

回	授業計画及び学習の内容
1	企画の立て方、企画書の作り方
2	市場調査
3	市場調査
4	企画書作成
5	企画書作成
6	ブラッシュアップ
7	企画書完成
8	発表
9	上記の作業を繰り返し行い、企画の立て方と考え方を身に付ける
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点、提出作品(提案)10点から成績評価を行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

配布したテキストを元に説明。繰り返し資料請求をまとめる作業を行い、最終作り上げた内容を授業内でプレゼンテーションを行う。

国内で行われている生地の展示会に訪問して実際のテキスタイル業務の内容を学ぶ

実務経験が長く現在もデザイン現場で働いており、今の情報や仕事を伝えることができる。またサンプルも所持しており学生が制作したい衣服の要望に応えることができる。

早稲田国際ビジネスカレッジ

シラバス例

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2020年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	サーフェイスデザイン	春日 泰浩	2単位 80時間

【授業の到達目標及びテーマ】

プリント柄に必要なリピートの知識と実践を行う。デザイン提案とデザイン画の描き方、photoshopを使ったデータ作成方法を学び、オリジナルテキスタイル制作ができるような人材を育てる。リピートした際に生じる違和感や不具合が出ないようなデザイン画制作を学ぶ。1デザインにつき複数の提案が出来るような人材を目指す。

【講義概要】

配布したテキストを元にリピートの解説と実践を行う。1デザインにつき3デザインを提案、その中から統合・省略・付け足し等の修正を行いながら完成した1デザイン画を制作。

回	授業計画及び学習の内容
1	ガイダンス リピートの知識 模擬演習 リピートの描き方
2	四方送り デザイン画制作(白生地に黒指定)
3	デザイン画制作
4	デザイン画制作
5	デザイン画制作
6	ハーフステップ送り デザイン画制作(白生地に2色指定)
7	服地を目的としたデザイン
8	デザイン画制作
9	デザイン画制作
10	デザイン画制作
11	同心円送り(白生地に3色指定)
12	スカーフを目的としたデザイン
13	デザイン画制作
14	デザイン画制作
15	デザイン画制作

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点、提出作品(提案)10点から成績評価を行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義と実習を交え授業を行い最終課題で制作するデザイン画はプリント実習で生地にプリント。ペーパーで制作したデザインと生地にプリントされたデザインの違いを目視して効果を学ぶ。

実務経験があり、デザイン業務の進め方を伝えるながら授業を行うことが出来る。

早稲田国際ビジネスカレッジ

シラバス例

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2020年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	プリント実習 I	春日 泰浩	5単位 175時間

【授業の到達目標及びテーマ】

オリジナルで制作したデザイン画を生地にプリント。データ作成から版制作、生地を選定、プリントと仕上げまでを学ぶ。実際の生地にプリントすることで、プリント柄の見え方や製品になった際の不具合や色の選定を学ぶ。企業に就職した際、プリント工場へ発注依頼できるような人材を育てる。

【講義概要】

データ作成、版制作、プリント方法を解説。作業時における注意点を気を付けながら実習。
①30cm×30cmのデザイン画(2色)を四方送りしたプリントを制作。②30cm×30cmのデザイン画(3色)をハーフステップしたプリントを制作。③60cm×90cmのデザイン画(3色)を上下送りしたプリントを制作。各長さ3m程度。各デザイン画とも市場調査と使用場面、コンセプトをまとめたデータを提出。最終日プレゼンテーションを行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	ハーフステップを利用したデザイン画をプリント。生地使用用途を決めてデザイン画作成
2	デザイン画制作
3	デザイン画制作
4	デザイン画制作
5	版下用データ制作
6	版制作・製版
7	版制作・製版
8	色実験
9	色実験
10	捺染
11	捺染
12	整理加工
13	使用用途をまとめマッピング
14	使用用途をまとめマッピング
15	プレゼンテーション

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点、提出作品(提案)10点から成績評価を行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

最初から最後まで自分の手を使って作業します。自分の手を使い体験することで生きた知識として今後活用することができます。

実務経験があり、プリント業務の進め方と楽しさを伝えるながら授業を行うことができる。

早稲田国際ビジネスカレッジ

シラバス例

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2021年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	ECサイト実習	丸山裕之	2単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

自分で制作した作品をECサイトで販売する方法を学び運用する。この実習を行うことで卒業後にオリジナルブランド設立や就職した際の即戦力として活用する人材を育てる。

【講義概要】

①ECサイトで作品を販売するための方法を学ぶ
・枠品紹介(コンセプト)をまとめる・作品撮影と画像の制作・作品動画撮影と活用法・SNSを活用した作品の販売とメディアコミュニケーション②ネットワークを利用した素材のやりとり③ホームページ制作の基礎知識

回 授業計画及び学習の内容

1	ガイダンス
2	作品ディスカッション
3	作品ディスカッション
4	ECサイト登録方法
5	作品の見せ方
6	写真撮影方法
7	写真撮影
8	作品登録と見せ方
9	作品登録と見せ方
10	送付方法
11	送付方法
12	総評

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点、提出作品(提案)10点から成績評価を行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

ECサイト設定や素材制作ソフトの操作方法を実際の画面で解説。その場で登録作業を行い運営方法も学ぶ。

実務経験を活かした授業と実際に体験したことを伝える授業を行うことが出来る。

早稲田国際ビジネスカレッジ

シラバス例

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2021年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	卒業制作	春日泰浩	2単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

教員から提案された課題でなく自分でテーマを見つけ、作品制作を行うことで洗練された作品コンセプトを作る。作品制作だけでなくプレゼンテーション、什器も含めた展示方法を考え発表することで作品制作の行く末や学校外からの評価を体験。卒業してからの活動手本として、この授業を活用する。

【講義概要】

スケジュール概要を説明。各自作品制作。後期半年間の制作に見合う作品を提出。
プリント・織生地・友禅等デザイン違いで3点以上。
きもの場合は、完成形を1点以上。
コンセプトをまとめたデータ等、展示用物品の制作。

回	授業計画及び学習の内容
1	ガイダンス
2	スケジュール表作成
3	デザイン提案
4	デザイン提案
5	デザイン提案
6	実験
7	実験
8	実験
9	本番制作
10	本番制作
11	本番制作
12	展示方法を考える
13	ポップ制作
14	展示
15	プレゼンテーション

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点、提出作品(提案)10点から成績評価を行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

スケジュール概要、展示点数等を初日授業で告知。作品コンセプトを考え、スケジュールを提出。実験、修正を繰り返して本番用テキスタイルを制作。シャツやバッグといった製品提案の場合は制作した生地を裁断縫製して製品化する。授業最終日プレゼンテーションを行い各講師から意見を聞き、作品手直しや展示方法の再検討を行う。制作した実務経験を活かした授業と実際に体験したことを伝える授業を行うことが出来る。